



## 天使の顕現

恐れることはない。ザカリア、あなたの願いは聞き入れられた。

(ルカによる福音書 1 章 13 節)

ザカリアはエルサレム神殿で働いていた祭司の一人で、妻のエリサベトと共に生涯を神に仕えて暮らした人です。ところがこの夫婦は子どもを与えられないまま、すでに年老いていました。今の日本では、初めから子どもはいらないという夫婦もたくさんいますが、この時代、夫婦に子どもがないというのは大きな悲しみだったのです。

その日、ザカリアは神殿の聖所に入って香をたいていました。それはザカリアにとって一生に一度あるかないかという光栄ある務めだったので、彼はたいへん緊張しながらその務めを行っていたと思います。…その時、思いがけなくも主の天使が香壇の右に立って言いました。「恐れることはない。ザカリア、あなたの願いは聞き入れられた。」天使は、エリサベトが男の子を産む、その子をヨハネと名付けなさい、と命じ、またその子の輝かしい未来を予告したのです。

ここで天使は「あなたの願いは聞き入れられた」と言いましたが、ザカリアが神殿の聖所で子どもを授けて下さいなどと個人的な祈りをしていたとは考えられません。おそらく、イスラエルの民の救いを求めて祈っていたのでしょう。神はその祈りを聞かれました。イスラエルの救いが現実のこととなることを示されました。その結果がザカリア夫婦に子どもが授けられるということだったのです。

しかしザカリアは、天使の言葉をそのまま受け入れることが出来ません。そこで「何によって、わたしはそれを知ることができるのでしょうか。わたしは老人ですし、妻も年をとっています」と答えると、天使はザカリアの口を利けなくしてしまいました。このことは従来、神の罰として説明されることが多かったと思います。神の言葉を信じられないザカリアは不信仰だ、と言われます。…しかし、

2017年2月発行

果たしてそれだけで説明できるものでしょうか。

そこでもう一度天使の言葉を見てみましょう。天使が「この喜ばしい知らせ」(19節)の中で伝えてきたのは、単に年取った夫婦に子どもが授けられるということではありません。生まれた子がやがて「主の御前に偉大な人になり、」「イスラエルの多くの子らをその神である主のもとに立ち帰らせる」ということでした。それは大変なことで、皆さんは一回聞いただけでは意味がわからないのではないかと思います。何がなんだかわからなかった、だから信じる事が出来なかった、…それをザカリアの不信仰と言うことは出来るかもしれませんが、しかし、口を利けなくされたことを彼の不信仰に対する罰だと決めつけるのは、少し厳しすぎるのではないのでしょうか。

仮に、天使がザカリアの口を封じなかったとしたら、どういうことが起きていたのでしょうか。ザカリアは聖所を出たあと、天使が語った言葉をそのまま繰り返すことは出来るでしょう。しかし、自分ではその意味がわからないままなのです。

神はご自分の言葉を、信じてもない人が語ることを望まれません。天使が伝えた言葉を全身全霊をあげて受け取り、それを他の人々に取り次いで行くことこそ神が求められることです。この段階ではザカリアにそれを期待することは出来ません。そこで神は彼に沈黙の時を与えられたのです。

神はザカリアに命じられたと思います。語るべき時が来たら語りなさい。でも、沈黙すべき時には沈黙していなさい。エリサベトが出産するまでのほぼ10か月の間、祈りつつ、私の言葉の意味を考えなさい、と。

こうしてみると、ザカリアに起こったことが本当に神の罰だったのかどうか、疑わしく思えてきます。これは罰というよりは、むしろ神の恵みだったのです。神はときにこのような不思議なことをなさるのです。

(2016年12月4日の礼拝説教より)

牧師 井上 豊